

学校だより



平成28年5月31日

横浜市立二谷小学校
校長 渡邊 文子

開港記念日に寄せて

学校長 渡邊文子

第111回運動会に多くの皆様の御参観をいただき、無事に終わることができました。ゴール目指して走る表情、次の走者にバトンを渡すために精一杯手を伸ばす姿等、一生懸命であることの美しさを、今年も子どもたちは感じさせてくれました。頑張った子どもたちに心から拍手を送りたいと思います。

運動会は、多くの方の力に支えられています。準備や当日の受付、見回りをしてくださったPTAの皆様、神奈川音頭に練習からお力添えをいただいた地域・保護者の皆様、温かい応援をしてくださった保護者・地域の皆様、そして、会場準備や運営で頑張った5・6年生。本当に多くの方の力に支えられています。「職員のチームワークを感じた」という有難いお言葉も頂戴しました。片づけにも多くの保護者の皆様のご協力くださいました。改めて、感謝申し上げます。子どもも大人も皆で協力して作り上げた二谷運動会。ありがとうございました。

ところで、6月2日は開校記念日です。先日、開港資料館でたいへん興味深い資料を見ました。「ペリー提督日本遠征記」の中の文章です。初めて日本を訪れ、日本人の生活の様子を見たペリーは、「彼らの手先の器用さは驚異的」と驚き、「日本の職人の技術の高さは、世界のどの国の職人にも劣らない」と述べています。ペリーが目にした職人の技がどのようなものであったかは分かりませんが、機械に頼らない手仕事の見事さは、遠くアメリカから訪れたペリーに感動を与えたようです。さらに、文章は次のように続きます。「～日本人の技術はすぐに世界の最も恵まれた国々と並ぶレベルに達するであろう。」ペリーの予想のように、その後日本が飛躍的発展を遂げたことは皆さんご承知のとおりです。

開港後の横浜の歴史は、私たちの祖先が優れた力を生かしながら豊かな国を目指して努力を続けた歴史でもあります。横浜の未来をつくるのは子どもたちです。平和でよりよい未来を築いてほしいという願いを、ペリーの言葉や横浜大空襲の話と共に月曜日の開港記念式で話しました。

開港資料館には「玉楠の木」があります。この木は開港当初からあったものですが、その後大火と関東大震災をくぐり抜け、新たに芽吹いて今にいたっているという木です。今も青々と葉を広げる玉楠の木は、私たちの祖先が、震災や戦争を乗り越えて歴史をつくってきたことを力強く伝えてくれているように思います。



校庭の大輪のバラ。5月はシャリンバイも見事に咲きました。